



## 「秋」



みなさんは、「秋」という言葉の語感に何を感じ取るでしょうか。

ある人は、もちろん「食欲の秋」、ある人は「スポーツの秋」、また、ある人は「読書の秋」、そして「勉学の秋」。秋という語には、何か意欲的なものが含まれているような気がします。暑い夏をひたすら耐え忍んだ反動が、秋になって人の心を前向きにさせるのでしょうか。秋に何かを始める、秋に何かを成し遂げる、そう思っている人も多いのではないかと思います。

ただ、人間の感情としては、秋に感傷的なものを感じ、傷つきやすく、悩み多い季節と捉えている人もいます。

たとえば、フランスの詩人・ポール・ヴェルレーヌは、「秋の歌(上田敏訳)」という詩の中で、

秋の日の	<現代語訳>	秋のある日
ヴィオロンの (ヴィオロン=ヴァイオリン)		ふと聞こえるヴァイオリンの音色が
ためいきの		まるでため息をつくように
身にしみて		私の心にしみ入って
ひたぶるに		ただひたすらに
うら <sup>かな</sup> 悲し。		もの悲しい気持ちになってくる。
.....		.....

と、歌います。秋に奏<sup>かな</sup>でられたヴァイオリンの、切々とした音色を自分の心象<sup>せつせつ</sup>に合わせ、まるで自分のため息のように悲しく感じたのです。ヴァイオリンの音色が、詩人の悲しみを増幅させたとも言えます。

秋は人の心を繊細にし、ほんの些細なことにも心を悩まし、悲しませる季節かもしれません。秋に様々な悩みを抱え、その解決に苦しんでいる人がカウンセリング室を訪れることも多くなりました。進路の悩み、友人との悩み、家族の悩み、恋の悩み……秋は悩みの季節でもあるのです。

みなさんは、秋とどう付き合っていけばいいのでしょうか。

秋という季節の持つ静けさ、深さ、心地よさを軸にして、自分の生き方、考え方に思いを巡らせ、じっくりと考え深い日々を送ってもいいかもしれません。一人の人間としての、自分の「<sup>こ</sup>「<sup>かた</sup>来し方行く末」を考えるとどうでしょうか。

秋がみなさんに、一回り豊かな人間性をもたらす季節になることを期待しています。